



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月2日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8242 URL https://www.h2o-retailing.co.jp/
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 荒木 直也
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 吉松 宏之 (TEL) 06-6365-8120
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 2023年11月30日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	318,543	4.6	9,897	788.4	10,664	276.1	6,294	125.6
2023年3月期第2四半期	304,425	28.4	1,114	—	2,835	—	2,790	△65.5

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 12,809百万円(△20.7%) 2023年3月期第2四半期 16,145百万円(22.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	54.47	54.02
2023年3月期第2四半期	22.64	22.48

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	691,634	281,177	37.1
2023年3月期	686,423	272,814	36.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 256,569百万円 2023年3月期 248,821百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2024年3月期	—	12.50	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	15.50	28.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注2) 2024年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 12円50銭 特別配当 3円00銭

(注3) 配当の状況につきましては、本日(2023年11月2日)公表いたしました「2024年3月期 第2四半期業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	680,000	8.3	22,000	93.2	22,500	73.0	13,000	△20.6	112.84

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注2) 業績予想につきましては、本日(2023年11月2日)公表いたしました「2024年3月期 第2四半期業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(注3) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等による影響を除外した従前の基準での売上高に相当する総額売上高は、1,050,000百万円(対前期増減率7.2%)であります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期2Q	125,201,396株	2023年3月期	125,201,396株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	9,989,192株	2023年3月期	8,813,548株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期2Q	115,549,145株	2023年3月期2Q	123,218,745株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「2. 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績の状況	2
2. 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	9

1. 経営成績の状況

▶売上高

当社グループの売上高は、318,543百万円（前期比104.6%）、収益認識に関する会計基準等による影響を除外した従前の基準での売上高に相当する総額売上高は505,189百万円（前期比109.5%）となりました。百貨店事業では堅調な国内消費に加え、免税売上高が大きく伸長し、食品事業では客単価の上昇と客数の回復により既存店は前年を上回って進捗し、連結全体で増収となりました。

▶営業利益及び経常利益

百貨店事業の売上伸長に伴う利益改善に、各セグメントでの増益も加わり、営業利益は9,897百万円（前期比888.4%）、経常利益は10,664百万円（前期比376.1%）といずれも第2四半期連結累計期間としては過去最高となりました。

（百貨店事業）

コロナ禍からの回復による経済活動の正常化に伴い入店客数が増加し、国内売上高は引き続き堅調に進捗しました。また、免税売上高は高額商材を中心に大きく伸長し、2018年度実績を上回って進捗しました。

阪急本店では、外出ニーズの本格化により全てのカテゴリーが前年を上回って推移しました。化粧品を含めファッション全般が好調で、ジュエリーや時計、ラグジュアリーブランドファッション等の売上も引き続き伸長しています。

販売費及び一般管理費については、人件費や光熱費、またカード手数料などの売上に連動する費用が増加したものの、宣伝費等のコストコントロールに努め計画を下回りました。

以上の結果、総額売上高は259,140百万円（前期比117.5%）、営業利益は7,039百万円（前期比432.9%）となりました。

（食品事業）

食品事業は、総額売上高が210,904百万円（前期比102.5%）、営業利益は4,123百万円（前期比250.9%）となりました。

イズミヤ・阪急オアシス株式会社の既存店売上高前年同期比は104.0%（客数101.0%、客単価103.0%）となりました。また、株式会社関西スーパーマーケットの既存店売上高前年同期比は104.6%（客数100.0%、客単価104.5%）となりました。両社ともに値上げの影響による客単価上昇と客数の回復により、既存店売上高は前年を上回って推移しました。

売上・利益率改善に向け、曜日販促の恒例化を推進するなどの集客施策に加え、総菜、PB商品や重点販売商品の取り組みを強化しました。

販売費及び一般管理費は生産性の向上のための什器等の改善を実施し、要員体制の最適化などを通して経費コントロールに努めたことで、前年実績を下回りました。

食品製造子会社は、株式会社阪急デリカアイや株式会社阪急ベーカリーにおいて、グループ外への卸販売と専門店売上が伸長し、増益となりました。

（商業施設事業）

商業施設事業は、総額売上高15,807百万円（前期比90.3%）、営業利益1,792百万円（前期比206.7%）となりました。イズミヤのショッピングセンター運営と衣料品・住居関連品販売及びテナント管理を行う株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発において、収益力強化、費用の適正化、地域との連携強化に取り組みました。直営売場の縮小やイズミヤショッピングセンターの店舗閉鎖により減収となったものの、テナントの売上拡大に向けた取り組みや新規イベント区画の設置は計画以上に進んでおり、経費の抑制も寄与し増益となりました。ビジネスホテルを運営する株式会社大井開発では、ビジネス・観光ともに宿泊需要が回復し、機動的な価格施策の下で客室稼働率が90%を超えて推移し、増収増益となりました。

(その他事業)

その他事業は、総額売上高19,336百万円（前期比109.0%）、営業利益1,318百万円（前期は営業損失1,563百万円）となりました。コロナ禍からの回復により専門店子会社が増収となり、持株会社である当社を除いたその他事業の子会社で321百万円の増益となりました。

▶親会社株主に帰属する四半期純利益

特別利益として株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発の土地建物売却等で固定資産売却益988百万円を計上した一方で、阪急本店の改装や神戸阪急・高槻阪急のリモデル改装等に伴う固定資産除却損794百万円など特別損失を1,178百万円計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,294百万円（前期比225.6%）となりました。

2. 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年度通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の結果及び足元の状況を踏まえて、以下の通りといたします。

(単位：百万円)

	通期
売上高	680,000
営業利益	22,000
経常利益	22,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,000

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	58,670	54,994
受取手形及び売掛金	68,572	67,972
商品及び製品	19,800	20,019
仕掛品	149	189
原材料及び貯蔵品	1,285	1,017
未収入金	8,055	8,036
その他	5,306	5,600
貸倒引当金	△430	△627
流動資産合計	161,408	157,202
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	125,783	127,621
機械装置及び運搬具（純額）	2,839	3,326
土地	162,665	161,117
建設仮勘定	1,465	1,136
その他（純額）	10,498	10,464
有形固定資産合計	303,253	303,666
無形固定資産		
のれん	1,690	1,436
その他	18,074	22,592
無形固定資産合計	19,764	24,028
投資その他の資産		
投資有価証券	101,249	107,604
長期貸付金	11,454	10,391
差入保証金	70,903	70,100
退職給付に係る資産	4,548	5,047
繰延税金資産	14,901	14,643
その他	1,683	1,665
貸倒引当金	△2,743	△2,716
投資その他の資産合計	201,997	206,736
固定資産合計	525,015	534,432
資産合計	686,423	691,634

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,674	70,422
1年内返済予定の長期借入金	15,350	5,350
未払金	27,877	29,832
リース債務	839	760
未払法人税等	5,395	2,812
商品券	8,908	8,809
前受金	32,820	34,412
賞与引当金	4,740	5,793
役員賞与引当金	109	94
店舗等閉鎖損失引当金	1,947	695
人事制度改編費用引当金	682	—
資産除去債務	570	172
その他	13,139	12,892
流動負債合計	176,055	172,047
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	143,917	143,706
長期末払金	325	192
リース債務	10,280	9,917
繰延税金負債	31,735	33,709
再評価に係る繰延税金負債	266	266
役員退職慰労引当金	207	181
商品券等回収引当金	3,247	3,321
長期預り保証金	10,572	10,416
退職給付に係る負債	13,028	12,841
資産除去債務	3,444	3,401
その他	526	455
固定負債合計	237,553	238,409
負債合計	413,608	410,457
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	94,882	94,695
利益剰余金	105,473	110,312
自己株式	△11,938	△13,800
株主資本合計	206,213	209,003
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,925	46,996
土地再評価差額金	303	303
為替換算調整勘定	1,188	1,943
退職給付に係る調整累計額	△1,808	△1,676
その他の包括利益累計額合計	42,608	47,565
新株予約権	1,200	1,248
非支配株主持分	22,792	23,358
純資産合計	272,814	281,177
負債純資産合計	686,423	691,634

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	304,425	318,543
売上原価	177,891	181,496
売上総利益	126,533	137,047
販売費及び一般管理費	125,419	127,150
営業利益	1,114	9,897
営業外収益		
受取利息	277	155
受取配当金	629	668
持分法による投資利益	—	61
諸債務整理益	421	346
為替差益	1,357	164
その他	401	516
営業外収益合計	3,088	1,912
営業外費用		
支払利息	492	446
商品券等回収引当金繰入額	339	273
持分法による投資損失	225	—
その他	310	424
営業外費用合計	1,367	1,145
経常利益	2,835	10,664
特別利益		
固定資産売却益	4,973	988
助成金収入	55	—
特別利益合計	5,029	988
特別損失		
固定資産除却損	707	794
事務所移転費用	273	282
店舗等閉鎖損失	1,400	101
新型コロナウイルス感染症による損失	380	—
開発中止損失	279	—
新店舗開業費用	102	—
特別損失合計	3,144	1,178
税金等調整前四半期純利益	4,719	10,473
法人税、住民税及び事業税	1,659	2,350
法人税等調整額	△113	329
法人税等合計	1,546	2,680
四半期純利益	3,173	7,793
非支配株主に帰属する四半期純利益	383	1,498
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,790	6,294

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,173	7,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,055	4,131
為替換算調整勘定	574	288
退職給付に係る調整額	166	130
持分法適用会社に対する持分相当額	1,176	466
その他の包括利益合計	12,972	5,016
四半期包括利益	16,145	12,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,792	11,251
非支配株主に係る四半期包括利益	352	1,557

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	71,645	198,320	16,598	15,501	302,066	2,359	304,425
セグメント間の内部 売上高又は振替高	281	2,020	5,341	9,625	17,268	△17,268	—
計	71,926	200,341	21,940	25,126	319,334	△14,908	304,425
セグメント利益又は 損失(△)	1,626	1,643	867	△1,563	2,572	△1,458	1,114

(注) 1. 調整額は、セグメント間の内部取引の消去額及び事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を四半期連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

2. セグメント売上高及び利益又は損失は、四半期連結損益計算書の売上高、営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	81,330	203,308	15,006	16,973	316,618	1,925	318,543
セグメント間の内部 売上高又は振替高	310	1,278	5,158	13,363	20,110	△20,110	—
計	81,640	204,586	20,164	30,336	336,728	△18,184	318,543
セグメント利益	7,039	4,123	1,792	1,318	14,273	△4,376	9,897

(注) 1. 調整額は、セグメント間の内部取引の消去額及び事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を四半期連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

2. セグメント売上高及び利益は、四半期連結損益計算書の売上高、営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(固定資産の譲渡)

当社は、2021年11月24日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社阪急阪神百貨店が保有する固定資産の譲渡を決議いたしました。概要は以下のとおりです。

1. 譲渡の理由

経営資源の有効活用による資産の効率化と財務体質の強化を図るため。

2. 譲渡契約の概要

譲渡契約日 : 2021年11月24日

対象資産の種類(現況) : 土地

対象資産の所在地 : 大阪市福島区鷺洲1丁目32-13

譲渡日 : 2023年12月下旬

譲渡価格及び譲渡の相手先 : 譲渡先に対する守秘義務により開示はできませんが、入札による公正な方法により、譲渡先の選定、譲渡価格の決定を行っております。

3. 損益に与える影響

譲渡日の属する2024年3月期第3四半期連結会計期間において、固定資産売却益約33億円を特別利益に計上する予定です。